

フェロバナジウム 国際相場は3年ぶり50ドル突破

ウクライナ情勢の深刻化で露からの供給不安強まる

鉄鋼添加用のフェロバナジウム（FeV）の国際相場は、主産地のロシアによるウクライナ侵攻や、アメリカやヨーロッパ、日本などの西側諸国による経済制裁の影響から、3月初めには3年ぶりとなる50ドル/kgを突破し、足元では57～61ドルと騰勢を強めている。相場は年初の33ドルからスタートすると、ウクライナ情勢の緊迫化のほか、原料となる五酸化バナジウム（ V_2O_5 ）大手のブラジルLargoの出荷遅れなどを受け、2月中旬には42ドルまで上昇していたが、ロシアが2月24日にウクライナ侵攻を始めると、供給不安が一段と高まった。ロシアは中国に次ぐ供給国で、出荷の6割以上がヨーロッパ向けとされる。ヨーロッパの需要は昨春から特殊鋼向けが急回復し、堅調に推移するため、ロシアからの輸入が制限されれば、深刻な供給不足に陥る可能性がある。今後の相場はウクライナ情勢に大きく左右されるが、バナジウムは生産国が限られ市場規模も小さいため、相場がいったん動き始めると過剰に反応する傾向がある。バナジウムの取扱でトップクラスのアドバンストマテリアルジャパン（AMJ）の松村洋・合金鉄部長によると、「短期的にはまだまだ上昇してもおかしくない」という。ほとんどの生産者は原料不足から長期契約の履行に手一杯なため、スポット市場に供給を減らしたことも相場を押し上げる要因となっている。すぐには下がりそうな雰囲気もなく、当面は現状の高値圏で推移するとみられている。